

第4回網走川河川整備計画検討会 議事要旨

日時：平成26年7月2日(火) 10:00～12:10

場所：網走市市民会館 3階 大会議室

事務局から、網走川水系河川整備計画（原案）について説明を行い、以下のような議論が行われた。

■網走川水系河川整備計画（原案）について

委員：網走川は、河口に大きな港湾があり、海水が網走湖まで逆流するという特徴がある。港湾で油類の流出があった場合、網走湖まで逆流することも考えられる。P57に記載している水質事故への対応にあたっては港湾管理者とも連携してもらいたい。

委員：特定外来種対策に関しては、ニセアカシアとオオハンゴンソウであると思う。ニセアカシアは花が咲いた時と秋の2回刈れば大抵駆除できる。その間にヤナギが残っていれば、ニセアカシアは生えにくくなる。対応は技術的に確立されている。

委員：河道に100%洪水流量を負担させる計画となっている。流域の地域特性を考えると、賛成できない。流域全体で流量分担する工夫を努力目標として記載してもらいたい。代替案の可能性の検討で、流域対策案は事業費が高いので採用しないとの説明だが、農業と漁業が基幹産業であるという特徴を踏まえ、事業費が高くなったとしても、流域全体で流量分担する考えを、目標、理念として含めるべきではないか。

委員：流域対策は河川管理者単独では実施できないとの判断で記載されていないのだと思う。しかし、流域対策の考え方は記載すべきと考えており、例えば、P58の“地域と一体となった河川管理”やP40の“広域防災対策”に、地域住民や地方自治体へ啓発する旨の文言があると良いと思う。

委員：河道の掘削は、高水敷を掘削することがイメージ図で分かるが、本文にも明記してほしい。

委員：P30の“河川整備の基本理念”に記載している、“網走川流域の有する特徴及びこれらと網走川との密接な関わりを踏まえ”に関して、より具体的に記述するとともに、下流に全て流すということではなく、上流域でも対策を実施する旨を明記すべき。

代替案についてはコスト比較だけで決定するのは、乱暴だと思うので、全体を見てバランスの良い対策を検討してほしい。

事務局：河道掘削案を最適とした理由としては、コストの大小のみではなく、治水効果や土地利用も含めた検討結果である。流域対策について、委員の先生方から具体的な提案があれば、それについても検討したい。

委員：費用対効果の検討に関しては、公共事業は5年、10年で工事費が3倍、5倍と高騰するが、工事費が年々増えることを考慮しているのか。

事務局：現時点では、そこまで工事費が増加しているという状況は無いが、将来的に、どう変動するかは分からないところもあるので、事業費等が変動した場合も感度分析している。

委員：20年間の時間スケールだと、土地利用の変化が予想されるので、流域対策として未利用となった川沿いの土地を可能な限り確保し、遊水地として利用できるのではないかと。

委員：不確定要素が大きく、目処が立たないことを計画盛り込むのは難しいと考えられる。

委員：遊水地として利用可能な農地が確保された場合は、遊水地として利用すると記載するとよい。

委員：「今後、流域対策に対して検討する」との記載ではどうか。

委員：理念として「流域全体で洪水を負担する仕組み作りを目指していく」という記述はできないか。

事務局：不確定な部分をどこまで記載できるか難しいと思う。

委員：基本理念に、可能な範囲で記述することは可能では。

委員：具体的な数値目標として、河道に100%ではなく、例えば20%を上流域や中流域で負担するというのを記載できないか。

委員：今までの議論の中では無理であるとの判断である。

委員：再度、全体の状況を勘案しながら、流量分担等についても議論するのが良い。

委員：流域全体で考えることについて反映してほしい。

委員：本川だけの問題ではなく、支川や農業排水路からの出水を遅らせるということも可能であれば記載した方が良い。

委員：流域対策は重要であり、努力の方向性は書き込むべきだが、各委員は河川管理者ができることを踏まえて議論してほしい。

委員：汽水湖があることが特徴なので、P30、34、42に「汽水域の保全を図る」旨を追記してほしい。P43(3)「汽水環境に配慮しつつ」は「汽水環境を維持しつつ」に、「関係団体と連携しながら・・・」には「濁水の発生防止対策」を追記してほしい。

委員：P57の“水質の保全・改善”には、網走湖のCODが悪いことが記載されていないので、追記してほしい。

委員：P37に記載されている「河川構造物の安全性が確保できない場合」とは、どんな想定か。

事務局：現時点での検討では、河道掘削により影響が生じる箇所は無いが、詳細な調査結果等から影響があると判明した場合は、必要な対策を実施するということである。

委員：P18でBOD75%値が近年は環境基準を満たしているとのことだが、夏季の流量が増えているのが原因で、汚濁量は変化していない。流量が減少すると水質が悪化する。開発建設部は水質の浄化・維持の中心的な役割を担ってほしい。

委員：流域対策の考えは重要であり、記載できるようであれば記載してほしい。ただ、流域対策である遊水地案は事業費が高く、近年の風潮ではそのような事業は認められていない。

遊水地案を採用するとしても、少なくとも費用対効果が1以上である必要がある。

委員：河道掘削案に対して疑義がでたという記録を残してほしい。

委員：今回の委員の意見を踏まえて原案を修正し、次回、再提示をお願いしたい。

以上